

ビエンエスタール省マリア・ルイサ大臣が語る  
「いのちの種をまく」プロジェクトの今



センブランド・ヴィダについて語るマリア・ルイサ大臣

これまで本誌でお伝えしてきた「センブランド・ヴィダ プロジェクト」、この大規模な植林プロジェクトを中心に担うのは「ビエンエスタール省※1」である。植林ならば日本という農水省の担当ではないかと思うが、直訳すれば「厚生省」に相当するビエンエスタール省が、なぜこのプロジェクトを実施するのか。

幸運にも、私たちは今回の現地取材で、ビエンエスタール省の大臣を務めるマリア・ルイサさん（トセパン協同組合の元スタッフ）から話を伺う中で、改めてその理由を知ることができた。この政策が生まれた背景、実施内容や現状、重要性和意義について改めて得られた情報をお伝えする。

ウインドファーム取材班（井上智晴・岩見知代子）

**43万人の力を合わせて  
107万ヘクタールの植林面積を目指す**

「センブランド・ヴィダ」が始まって、2年計画のうち半分が過ぎました。現在、プロジェクトは8つの州で実施されています。2020年のプロジェクトの予算は、昨年の倍の280億ペソ（2020年5月現在、およそ1275億円）。予定していた植林面積も増え、現在107万5000ヘクタール（東京都の面積の5倍）を目標にしています。

活動内容としては、まず自給用の作物を植え、次にコーヒーや力カオなどの換金作物を栽培していく流れになっています。植林できる地域はまだあるので、予算次第で目標面積は増やせます。また、植林のための苗を準備する苗床は、すでに3343ヶ所が稼働していて、最終的な目標として5754ヶ所設置する予定です。2019年にブ

センブランド・ヴィダ “いのちの種をまく”  
SEMBRANDO VIDA プロジェクト

- メキシコ新政権が最も重視する政策
- 100万ヘクタールの植林プロジェクト  
森林農法による作物の植林・栽培。  
※ 森林農法 × 単一栽培
- プロジェクトの目標

- ・森林農法による森林再生と生態系の保全
- ・貧困対策として40万人の直接雇用を生み出す
- ・地域コミュニティ（地域のつながり）の再生



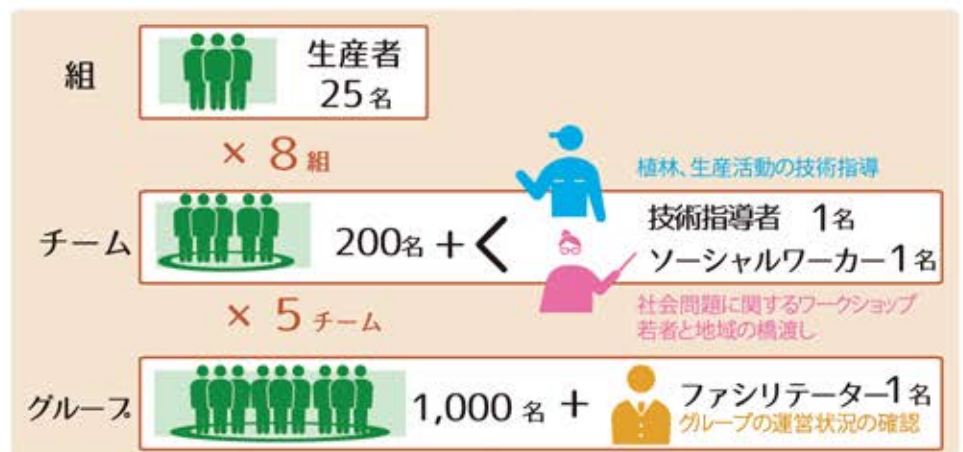
注1 「ビエンエスタール省」

「ビエンエスタール」とは、「よりよく生きる」という意味。直訳すれば「厚生省」だが、新政権では、「センブランド・ヴィダ」プロジェクトに代表されるように、地域開発・農業・雇用など、人々が「よりよく生きる」ための多様な取り組みを行っている。「厚生省」という言葉では、ビエンエスタール省の本来の意味が伝わらないと私たちは考え、訳語ではなく「ビエンエスタール省」と記載している。

プロジェクトへの参加登録を行った生産者は23万人。2020年にはさらに20万人の増員を目指しています。また、参加生産者のうち30%弱が女性ですが、州によってはさらにその割合が多いところもあります。

**200名の生産者からなる植林チーム**  
**技術指導者、ソーシャルワーカーも加わっての協同作業**

「センブランド・ヴィダ」に参加する生産者たちは、25名で1つの組を作りますが、その組8つがまとまって1チーム（生産者は200名）となります。ここに、技術指導者とソーシャルワーカーが各1名付きます。2019年末の時点で、技術指導者とソーシャルワーカーは1142名いて、その3分の1が女性です。そして、1チーム（生産者200名）が5つ集まって1グループ（1000人）の生産者を形成し、1グループ毎に1人のファシリテーターが付きまします。現在229名いるファシリテーターは、プロジェクトの進行状況を見守る役割を担っています。



技術指導者、ソーシャルワーカー、そしてファシリテーターは、それぞれ国が募集を掛け、これまでの専攻や経験を考慮し、筆記試験や面接を経て採用します。技術指導者は、雇用されると3日間の短期研修を受けられますが、その後、各地へ配属されてからも、必要と思われる分野の研

修は受け続けるようになってい

こうした研修はトセパン協同組合（以下、トセパン）で実施されています。2019年は、約150名の技術指導者がトセパンでの研修を受けました。このことから、国が政策として森林農法を展開していく上で、トセパンはモデルとして位置づけられていることがわかり頂けると幸いです。

一方で、ソーシャルワーカーは心理学や社会開発など学び、経験のある人たちを採用しています。「センブランド・ヴィダ」の特徴の一つは、このソーシャルワーカーを置いている点であり、そこに、プロジェクトが目指す重要なポイントが含まれているのです。

ソーシャルワーカーは男尊女卑がまだ残るメキシコにおいて男女同権の重要性、またアルコール依存症といった社会問題についてのワークショップを行っています。また、「センブランド・ヴィダ」には地元の若い人たちが多く参加していて、こ

した若者と生産者や地域とのつながり役としての役割を、ソーシャルワーカーは担っています。

植林して生産活動を行うための技術指導だけを行うのではなく、社会生活やコミュニティの維持・再生を支援していくことが、このプロジェクトにとって重要であり、欠かせない部分となっているのです。



植林に必要な苗を準備する苗床

## センスランド・ヴィダが生まれた背景、プロジェクトに取り組む理由

なぜロペスオブラドール大統領が「センスランド・ヴィダ」を始めるに至ったのか？その理由について、お話しします。メキシコではこれまでの政権が、貧困層や小規模の生産者への支援を行ってこなかったという背景があります。生産者に一時的にお金を渡すことはあったのですが、ただ補助金を渡すだけで、そこから生産を維持し、さらに広げていくといったことにはつながっていませんでした。

補助金を受け取った貧困層の人たちは、そのお金で決められた政府運営の雑貨店で加工品を購入するだけでした。その結果、地域の食文化は破壊され、栄養の偏りなど健康面での悪影響も見られました。メキシコにおける貧困地域は先住民の地域と重なっており、こうしたばらまきの支援によって、先住民の食や文化、そして伝統が失われることにつながったのです。

本来、メキシコの先住民は自然と



「よりよく生きる」ための政策を実施するロペスオブラドール大統領

出典：Andrés Manuel López Obrador Facebookページ

<https://www.facebook.com/lopezobrador.org.mx/>

共に暮らしてきた人たちで、固有の豊かな文化を持っています。しかし、先住民への差別や偏見が根強いメキシコでは、彼らを評価する政権はこれまでありませんでした。それもある、先住民の地域は生態系が豊かである一方、荒廃する地域も目立っているのです。

加えて、メキシコはこの30年、農業面での生産性が低下しています。その一つの要因が新自由主義的政策で、特に1994年の北米自由貿易協定（NAFTA）発効以降、小規模生産者たちへの政府の支援はあり

## センスランド・ヴィダが生まれた背景

これまでの政権：文化や自然環境の軽視

- 貧困問題に対する一時しのぎの対応が、栄養の偏りや、地域の食文化や伝統の喪失に繋がった
- 新自由主義的政策により貧富の格差拡大、農業の崩壊や環境破壊が進んだ

ロペスオブラドール大統領：「貧困問題の根本的な解決」

センスランド・ヴィダによる  
農業の生産性の向上、貧困地域の支援

- \* 持続的に農業ができる環境をつくること、先住民文化を正當に評価することが含まれる。



と、先住民の人たちの文化やその暮らしを正當に評価することが含まれています。こうした理由から、高齢者や障害者への年金制度や貧困層への支援に取り組むビエンエスタール省が、このプロジェクトを担うことになったのです。

**ミルパとして森林農法  
メキシコの伝統的な農法がもたらす恩恵**

こうした背景の中で、生産者は換金作物だけではなく、まずミルパと呼ばれるメキシコの伝統農法によって、トウモロコシなどの自給用の作物を栽培することにしました。実際、1ヘクタールでミルパを実施すれば、一家族の自給用作物が収穫できます。

メキシコはトウモロコシが主食の国ですが、その半分は輸入に頼っているという現状があります。しかしミルパでは、最短で種まきから半年で収穫ができるので、プロジェクトが始まって1年経った現在、トウモロコシについてはすでに国内自給率が高まっています。

ミルパの次には、「センスランド・

「ヴィダ」の目的の一つ、森林農法（アグロフォレストリー）においてコーヒーやカカオなどの換金作物、自給用のフルーツ、薪や薬草を栽培し、合わせて養蜂や家畜生産も行います。特に養蜂は代々受け継がれてきた知識で、それを政府が支援するのはメキシコで初めてのことです。

森林農法が展開されていくことの恩恵は、もともとあった森を守るだけではありません。放置され荒廃してしまつた土地は、農薬や化学肥料を使わない有機栽培によって、新たな森として再生します。生産量が少なくなっていたバナナや、かつてメキシコの国を代表する作物だったカカオも、森林農法を通し、昔からの知恵を活かしながら復活させ

る取り組みにもつながっています。

ミルパと森林農法の組み合わせは、メキシコの先住民の人たちが長い歴史の中で培ってきたもの。それが再評価され、広く展開されることで、貧困層の人たちへの経済的、文化的、そして精神的な支援になっています。

生産者は、土地を耕すことで毎月給与を得ています。ご存じかもしれませんが、トセパンの銀行「トセパン・トミン」にならない、その給与のうち毎月500ペソ（2020年5月現在、およそ2,275円）は自動的に個人個人の貯蓄口座に振り分けられています。皆さんに貯金する習慣を身に付けほしいという思

いで行っているのですが、それ以外の給与も子どもへの教育や、健康・衛生、食料に使うことで、生産者たちが「よりよく生きる（スペイン語で「ビエンエスताल」）」ことにつながっています。

### センブランド・ヴィダのこれから・僻地のインフラ改善とフェアトレードの実現へ

現在、「センブランド・ヴィダ」は、当初予定されていた規模を超えて展開されています。メキシコ国内には68の先住民のグループがいるのですが、現在そのうちの25グループが参加していて、最終的には50のグループの参加を予定しています。先住民の中には、長年の差別や偏見から自分が先住民であることを隠す人もいて、実際のところ先住民としての参加人数の把握は難しい状況にあります。多くの先住民が参加しているということは間違いありません。

メキシコの貧困指数は、多くの先住民が暮らしている僻地ほど高くなっています。メキシコでは長年に

渡って地方のインフラが整備されてこなかったため、こうした僻地では特にアクセス（道路）やコミュニケーションツール（インターネット）が通じないなど、ATMの不足といった問題があり、プロジェクトを進めるうえで大きな妨げになっています。

例えば、一番近い銀行やATMに行くまでに6〜7時間もかかってしまうというような地域もあります。プロジェクトが実施されていく中で、これまでの政権が、いかに地方や僻地にインフラ整備をしてこなかったかという事実が浮き彫りになっているのです。しかし、標高の高い地域や島、また暴力が多発している地域でも「センブランド・ヴィダ」は展開されており、こうした問題を少しずつ改善させながらプロジェクトを進めています。

もうひとつ、重要な課題があります。「センブランド・ヴィダ」が本当に成功するかどうかは、そこで収穫されるコーヒーやカカオといった輸出品がどうにかかかっています。センブランド・ヴィダによって、まずは必



メキシコの伝統農法である「ミルパ」で栽培されるトウモロコシ

要な自給作物は収穫できます。ですが、例えば森林農法で森が増えていっても、そこで採れる作物が収入に結びつかなければ、生産者たちは暮らしていけません。そこで、メキシコ政府は「センプランド・ヴィダ認証」を作り、そこで収穫されたものが有機栽培であること、また高品質であることを示し、国内外でフェアトレードを展開していきたいと考えています。そのときにはぜひ日本のみなさんにもサポートいただけると嬉しいです。



フェアトレードの大切さを語るマリアルイサ大臣

## 取材後記

### センプランド・ヴィダが、一番大切にしていること

今回私たちは、大臣となって忙しい日々を送るマリア・ルイサさんにお話を聞ける貴重な機会を得た。大臣になってからもトセパンにいた時と変わらず、にこやかに迎えてくれ、予定よりも多くの時間を割いて私たちのインタビュに答えてくれた。生産者や先住民族の状況をよく知るマリア・ルイサさんだからこそ、センプランド・ヴィダへの思いはとも強く、話を聞きながら、彼女がこの政策を担う理由が改めてよくわかった。

私たちは、これまで「センプランド・ヴィダ」を植林プロジェクトとして紹介してきた。もちろんその中には、「センプランド・ヴィダ」は、人々が生まれた場所で働き、家族と共に幸せに暮らすことができる「プロジェクト」という口ベスオスラドル大統領の言葉からわかるように、「皆が幸せになる」という目標が掲げられている、ということはお伝えしてきた。けれど、今回マリア・ルイサさん

の話を通して改めてわかったのは、植林というのはあくまで入口や手段であり、このプロジェクトの根っこにあるのは、これまで目を向けられなかった貧困層への支援、つまり先住民の文化や伝統的な暮らしを守るということだった。これだけ多くの人たちが参加するプロジェクトでありながら、詳細に体系化され、参加する生産者一人一人にしっかりと行き届く支援のかたちができるのは、メキシコ政府が表面的ではなく、本気でその支援に取り組んでいるという証拠だろう。

メキシコでは、特に農村部や先住民たちの暮らしは苦しく、家庭内暴力などの問題も多い。今回のインタビュでもわかるように、長年に渡る先住民への偏見やこれまでの政権の政策によって、自然と寄り添う伝統的な暮らしが壊され、貧しさで苦しむ先住民や地域も多くある。もちろん、それはトセパンも例外ではない。だからこそ、彼らは団結してそうしたさまざまな問題を解決しようと取り組んできたのだ。

その彼らもすべての問題を克服したわけではなく、いま現在も皆で知恵を出し、共に考え、多様な取り組みを展開することでこうした問題を解決しようと歩み続けて

いる。

「センプランド・ヴィダ」によって持続的な農業が可能になり、社会問題への取り組みも含んだコミュニティづくりが広がっていくことで、こうした貧困層や先住民の人たちの暮らしがどのように変わっていくのか。今後も、引き続き私たちは、「センプランド・ヴィダ」とメキシコの動きを見守り、皆さんにお伝えしていきたいと思う。

そして、「センプランド・ヴィダ」の成功には、そこで出来たコーヒーやカカオを飲む日本の私たちも大きく関わっている。遠く離れたメキシコでこれだけ多くの人が関わり、希望を持って大切に育てられたコーヒーが日本で飲めるなら、私たちにとっても、これほど幸せなことではないのではないだろうか。フェアトレードによって、センプランド・ヴィダ認証コーヒーの届く日が今からとても待ち遠しい。

取材：ウインドファーム取材班